

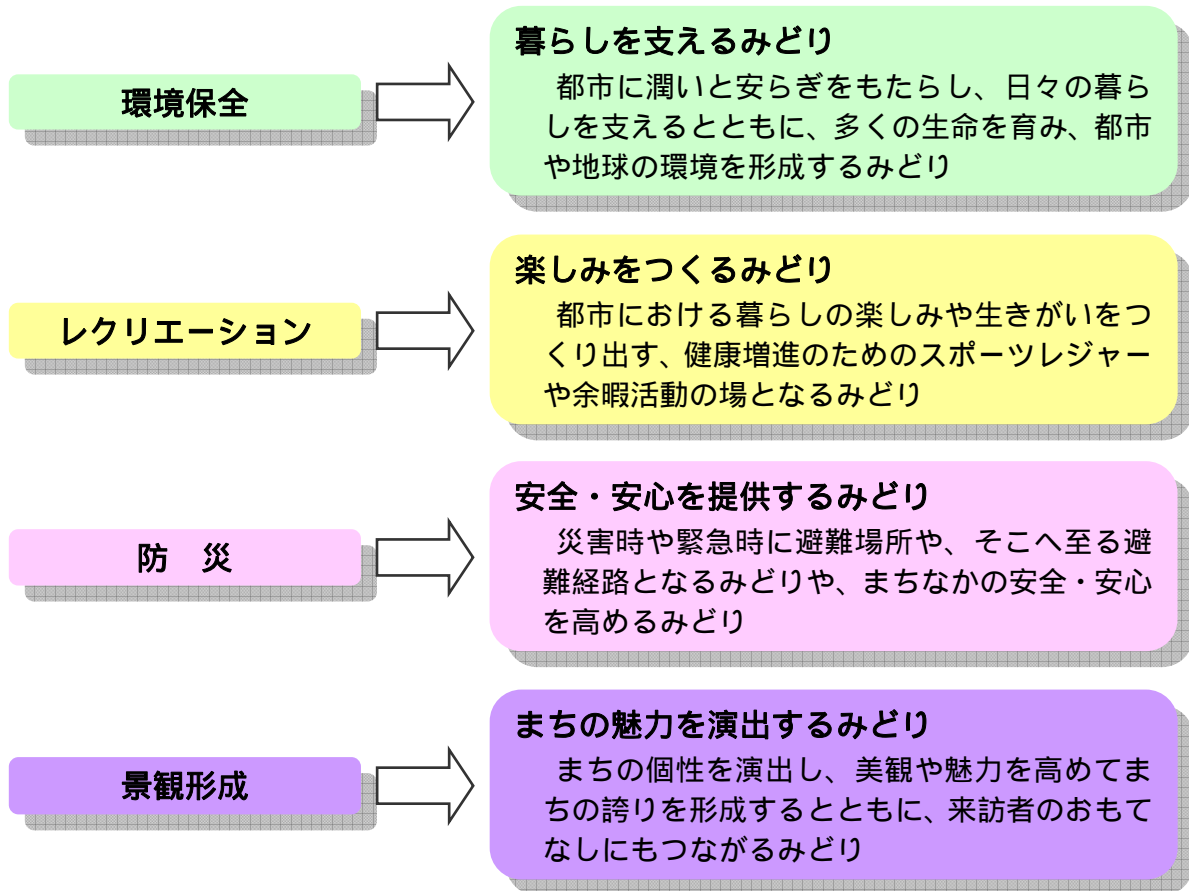
5) 多様なみどりの現況



図-10 大田区の多様なみどりの分布図

(2) みどりの役割と課題

都市の中のみどりには、「環境保全」「レクリエーション」「防災」「景観形成」の4つの機能があります。



区ではこれまで、それぞれの機能を高めていくために、さまざまな取組みを進めてきました。しかしながら、区内のみどりは質的にも、量的にもまだ十分とはいえません。また、近年は、上記の4つの機能に加え、「地域コミュニティの醸成」や「経済的な効用」も注目されています。みどりは、多くの人々に愛され、親しみをもたれる存在です。みどりを通じた人と人とのつながりがみどりのまちづくりを進めていく上での大きな力となります。そして、みどりのまちづくりを舞台とした地域コミュニティの醸成により、地域の活性化や区民生活の満足度が高まるといった効果や地域力の向上が期待されます。

一方、市街地の中ではみどりの存在そのものがまち全体や個々の建物に対して大きな付加価値を生み出しています。これらにより、まちや建物などの資産価値が守られるとともに、区民がより長く住み続けたいくなるようなまちとしての魅力が高まり、まちへの愛着も深まります。

このようなみどりの役割についても、4つのみどりの機能を支えるプラスアルファの重要な役割として、今後のみどりのまちづくり推進へ向けた検討課題とします。

1) 暮らしを支えるみどり【環境保全】

【これまでの取組み】

みどりの骨格の充実

- ・田園調布せせらぎ公園や大森ふるさとの浜辺公園などの拠点整備
- ・都市計画道路拡幅整備や呑川緑道、桜のプロムナード散策路整備による水と緑のネットワーク化

自然環境の保全 < 緑と水辺の7つの拠点 >

- ・崖線沿いの既存樹林地を保全する都市緑地*などの公園整備
- ・民有地内の樹木・樹林の保護

市街地のみどりの確保

- ・公園整備や開発指導・緑化助成

【今後の課題】

緑被率は区全体ではほぼ横ばいであるが、減少傾向が見られる地域もあり、区全体ではさらに緑を増やすとともに質の向上も必要

多様なみどりの骨格である多摩川や呑川などの河川や臨海部の運河沿いの水辺環境の保全
台地部の崖線沿いや住宅街に残された貴重な樹林地や湧水・池などの自然環境の保全

これまでの緑と水辺の7つの拠点に加え、臨海部などでの新たなみどりの拠点づくり

区内のみどりの骨格となる水辺のみどりづくりや拠点となる公園・緑地の整備、散策路や緑道整備などによるみどりのネットワークづくり

区民とのパートナーシップ*でみどりを守り、つくり、育てるための仕組みづくり



図-11 暮らしを支えるみどりの現況・課題図

2) 楽しみをつくるみどり【レクリエーション】

【これまでの取り組み】

- レクリエーションやスポーツ地域活動の拠点となる公園・緑地の整備
 - ・平和の森公園や平和島公園、萩中公園、東調布公園、洗足池公園、田園調布せせらぎ公園など
- 多摩川の広大な河川敷を活用した、野球場やテニスコート、サッカー場、サイクリングロードなどの運動施設や、自然とのふれあいの場となる散策路や観察路などの整備
- 区民のスポーツ、健康増進のための余暇施設の整備
 - ・体育館、温水プール、区民センターなど
- みどりの拠点施設をつなぎ、みどり資源を活かしてくためのネットワークづくり
 - ・呑川緑道、桜のプロムナード、水と緑の散策路など
- 区民のライフスタイルや社会状況の変化に伴う区民ニーズの多様化に対応した公園・緑地や余暇施設の拡充、魅力アップ

【今後の課題】

- 羽田空港の国際化をきっかけとした、来訪者への観光やおもてなしの視点での拠点整備やネットワークづくり
- 羽田空港の跡地利用や臨海部の開発などの機会をとらえた、区のみどりの魅力を高めていく新たな取り組み
- 拠点施設となる大規模公園や地域の活動拠点となる公園・緑地の整備
 - 東調布公園や多摩川台公園、洗足池公園、萩中公園、平和の森公園などの拠点公園・緑地の魅力アップ
- 区民の円滑な移動ルートの確保、地域活動を支える公園の再生整備
 - 桜、梅の名所の維持更新、再生整備
 - ・桜...洗足池公園や馬込の桜並木などの再生整備
 - ・梅...聖蹟蒲田梅屋敷公園や宝来公園などの再生整備
- 拠点緑地や施設をつなぐ呑川緑道や桜のプロムナード、旧六郷用水などの散策路のうち、老朽化した箇所再生整備や円滑な移動ルートの確保
- 大田区体育館・大田区民センターなどの老朽化したスポーツ・レクリエーション施設などの維持更新や不足地域の解消を目指した新たな施設整備
- 地域の子どもの遊び場や高齢者の憩いの場、地域活動の拠点として利用できる公園・緑地の不足地域の解消
- 品川区や目黒区、世田谷区、川崎市などの近隣区市との連携や一体的な活用



図-12 楽しみをつくるみどりの現況・課題図

3) 安全・安心を提供するみどり【防災】

【これまでの取組み】

地域の活動拠点となる公園・緑地などの整備確保

- ・大森ふるさとの浜辺公園
- ・東糀谷防災公園

避難道路・誘導路となる道路の拡幅整備や沿道の建物不燃化

- ・産業道路や第一京浜国道
- ・環状8号線
- ・都市計画道路補助線街路第43・44号線

防災地域危険度*の高い密集市街地での総合的な防災まちづくり

- ・蒲田駅周辺や多摩川沿い
- ・大森中周辺 など

【今後の課題】

羽田空港跡地周辺や内陸部での災害時の避難場所(広域避難場所)ともなる公園・緑地の確保
 災害時に避難道路・誘導路や緊急輸送道路*となる国道、都道などの幹線街路や補助線街路の拡幅整備、沿道不燃化促進

地域の安全・安心活動の拠点や災害時の一時集合場所などとして活用できる公園・緑地の整備や拡張

糀谷・羽田地域などに広がる木造住宅密集市街地での地域の防災性をさらに高めるまちづくり
 交通安全、防犯など、区民の日常生活の安全・安心を高める工夫



図-13 安全・安心を提供するみどりの現況・課題図

4) まちの魅力を演出するみどり【景観形成】

【これまでの取組み】

大田区の多様なみどりを支える多摩川や呑川、臨海部の運河などの水辺での魅力を活かした水辺景観づくりや自然環境の保全

崖線での樹林・樹木の保全

- ・国分寺崖線沿い
- ・南北崖線沿い

地域の歴史や文化、特有な自然資源などを活かした整備

- ・洗足池公園や多摩川台公園、旧六郷用水などの公園・緑地、緑道の整備

区民に潤いと安らぎを与え、まちの魅力を演出しているシンボリックなみどりの保全

- ・区内全域での保護樹木・樹林制度による大木や樹林地の保護

みどりによるまちの魅力アップ

- ・風致地区や地区計画*などのまちづくり制度の活用(洗足池周辺や田園調布周辺などの地域)

まちの魅力を高める地域での取組み

- ・ふれあいパーク活動の推進
- ・NPO団体*などとの連携による花壇づくり
- ・開発指導や生垣・屋上・壁面緑化*助成などによる市街地緑化

【今後の課題】

羽田空港の国際化に伴い、多くの外国人が訪れる日本の玄関口としての第一印象を高める

第1章 改定にあたって

ためのみどりによるまちの魅力アップ

中心拠点(大森駅周辺、蒲田駅周辺、羽田空港跡地・周辺部)でのまちの活性化とおもてなしのまちづくり

大田区の最大の特徴である多様な水辺環境の保全・創出と、それを活かしたみどりのまちの風景づくり

まちの魅力を支えるみどりの景観拠点としての比較的大きなみどりの塊(年々減少している崖線沿いの樹林地や屋敷林*、稀少な農地など)の保全や確保

まちの景観みどり資源(まちなかの美しい花を咲かせる植物、まちの風景となっている風格のある樹木・樹林、歴史・文化を醸し出す建物・工作物など)の活用によるまちの魅力アップ
 様々な制度を活かしたまちなみ景観づくりによる、区民が住み続けたいと思えるまちづくり
 崖線沿いや臨海部の河川・運河沿いなどでの、近隣区市と連携した広域的な景観整備



図-14 まちの魅力を演出するみどりの現況・課題図

四季を楽しめるみどり

大田区の四季を楽しめるみどりを並べてみました。



春

桜
(呑川沿い 西蒲田)



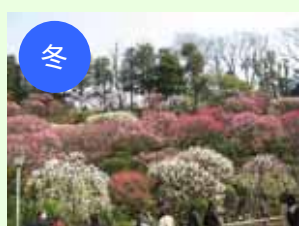
夏

アジサイ
(多摩川台公園)



秋

紅葉
(田園調布せせらぎ公園)



冬

梅
(池上梅園)

8 区民の思い

計画を改定するにあたり、区民の思いを把握するために、隔年で実施している「大田区政に関する世論調査」のみどりに関する設問と、さらに具体的なみどりに関する意向を把握するために実施した「みどりを守り・つくり・育てるためのアンケート」の結果を整理しました。両調査とも、みどりの満足度については、約半数が満足しており、同様の傾向となっています。両調査の結果概要は以下のとおりです。

(1) 大田区政に関する世論調査

< 緑の多さの満足度 >

過去10年間50%前半を推移しており、引き続き、満足度向上に資する施策の展開が求められます。

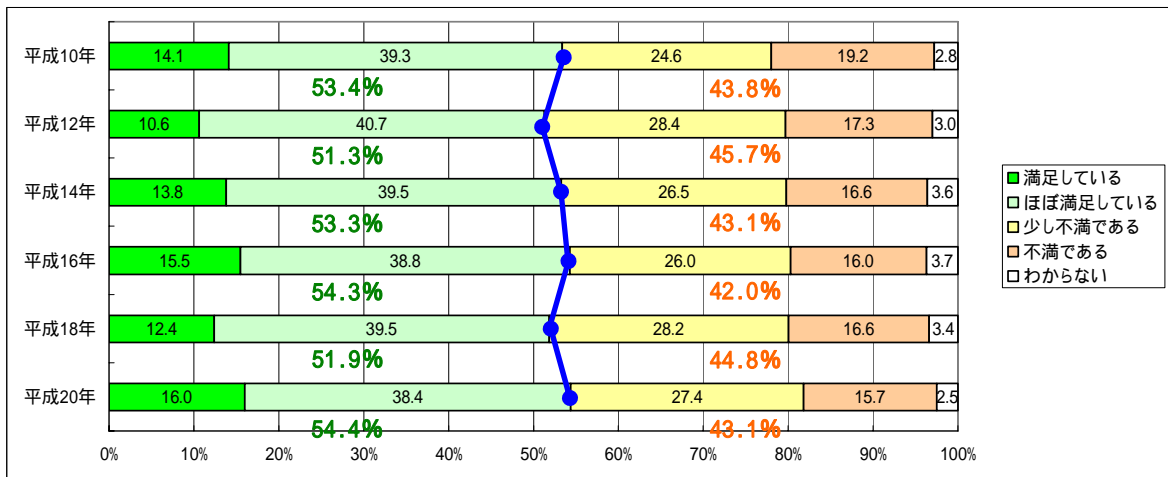


図-15 「緑の多さの満足度」

端数処理の関係で合計値が合わない場合があります。

< 公園や子どもの遊び場の満足度 >

近年、満足度が向上しており、今後も公園の新設・拡張に取り組むとともに、今後は公園の不足地域の解消や多様なニーズにも対応した公園整備も求められます。

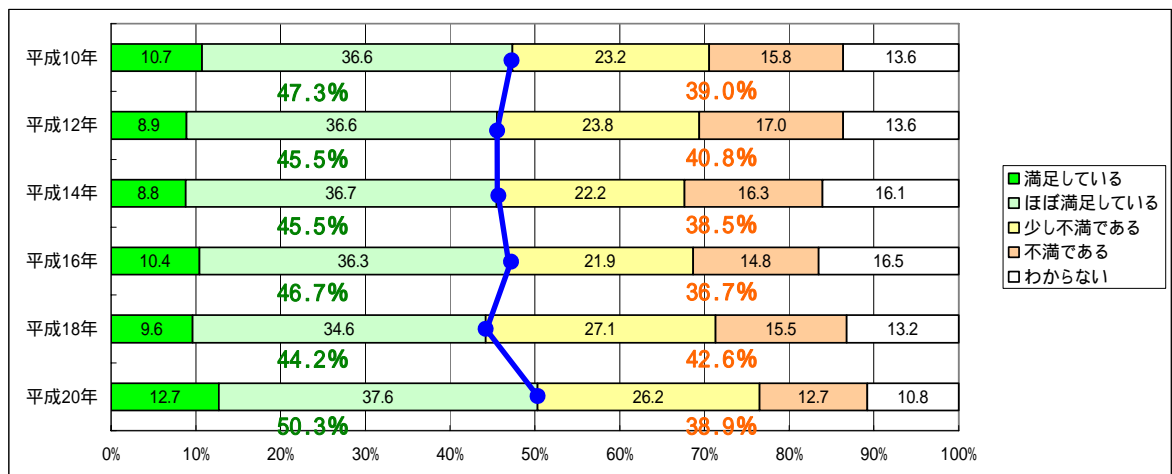


図-16 「公園や子どもの遊び場に関する満足度」

端数処理の関係で合計値が合わない場合があります。

(2) みどりを守り・つくり・育てるためのアンケート

<アンケート実施概要>

実施期間	対象	発送数	回答数	回収率
平成 22 年 3月 29 日(月) ~ 4月 10 日(土)	20 歳以上の 区内在住者	2,031 件	595 件	29.3%

<お住まいのまちのみどりの満足度>

- ・満足している人の割合が区全体で5割を超えています。
- ・地域別に見ると、満足度が7割を超える台地部の地域に比べて、3割から4割と低い蒲田駅、大森駅周辺の地域では市街地の緑化推進が求められます。

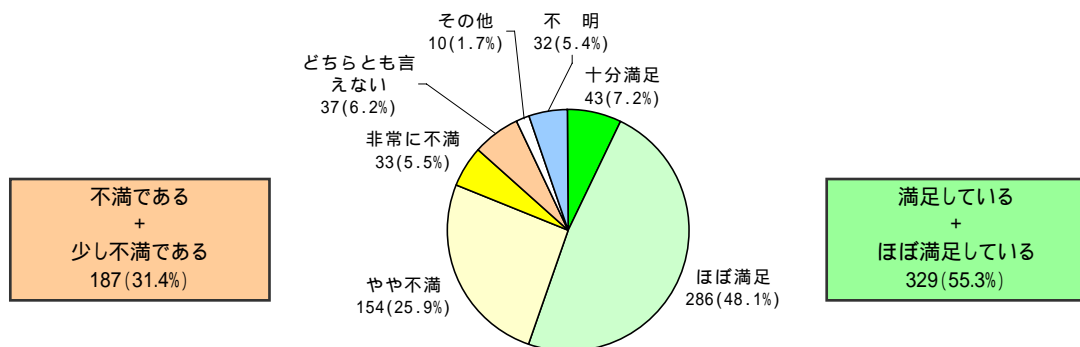
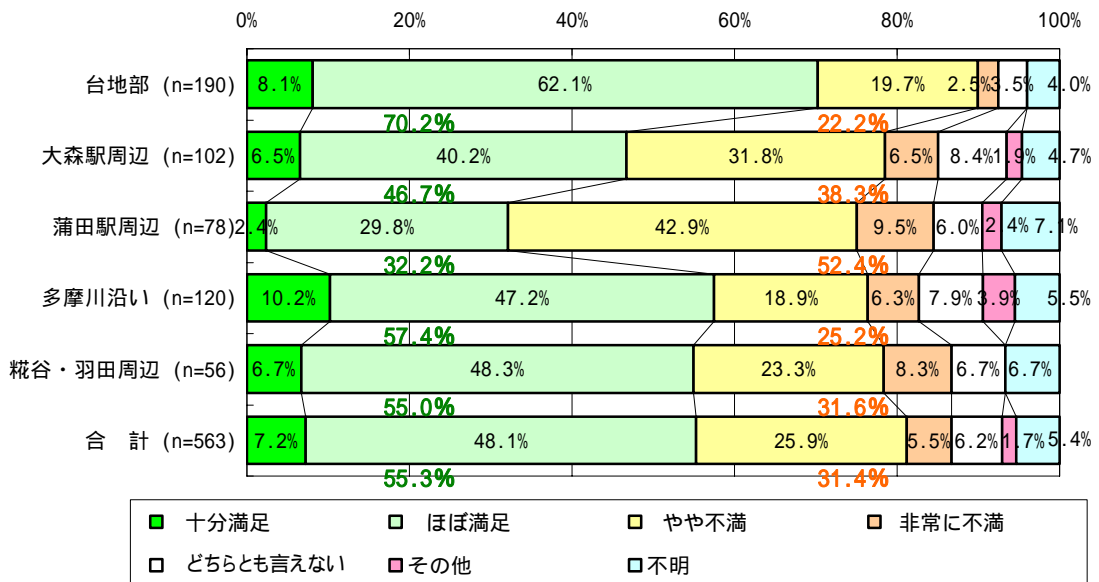


図-17 大田区全体のみどりの満足度



端数処理の関係で合計値が合わない場合があります。

図-18 地域別のみどりの満足度

< 区内の好きなみどり >

多摩川などの水辺のみどりや、緑豊かな社寺林などが上位となっています。このような、自然と触れ合える貴重な環境の保全とともに、今回下位となった海辺のみどりの魅力を高めることも求められます。

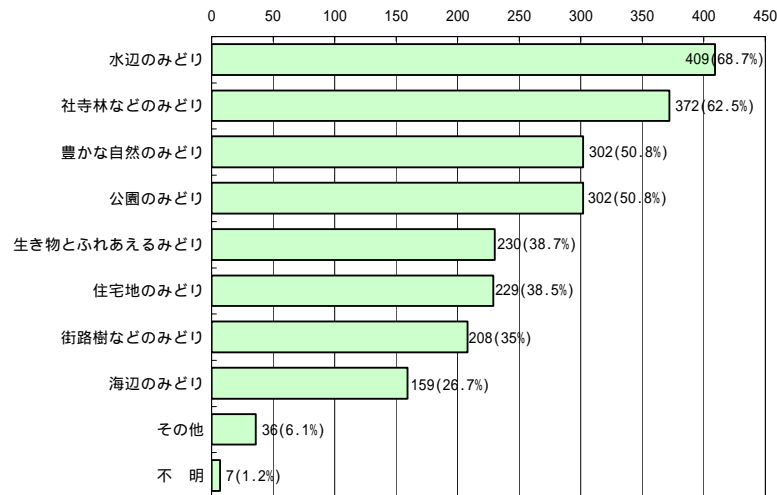


図-19 区内の好きなみどり（複数回答）

< 日頃、生活の中でふれあっているみどり >

公園・道路などの公共のみどりが最も高くなっており、暮らしを支えるみどりの更なる整備推進などが求められます。

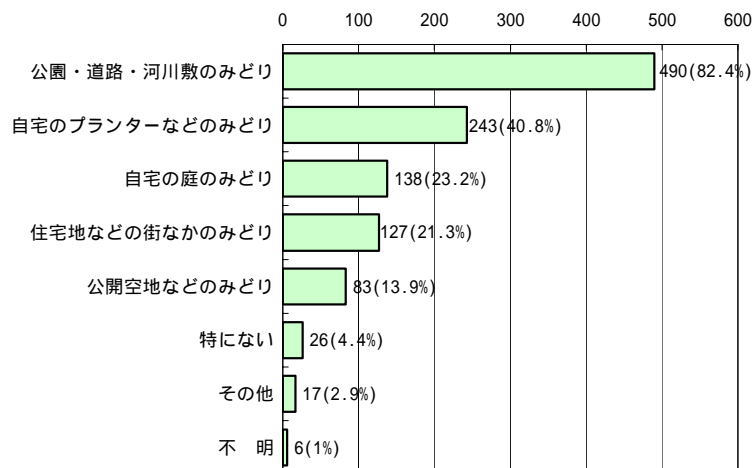


図-20 日頃、生活の中でふれあっているみどり（複数回答）

< 今後増えて欲しいみどり >

公園が最も多くなっています。引き続き、公園の新設・拡張に取り組むとともに、今後は公園の不足地域の解消や多様なニーズにも対応した公園整備も求められます。

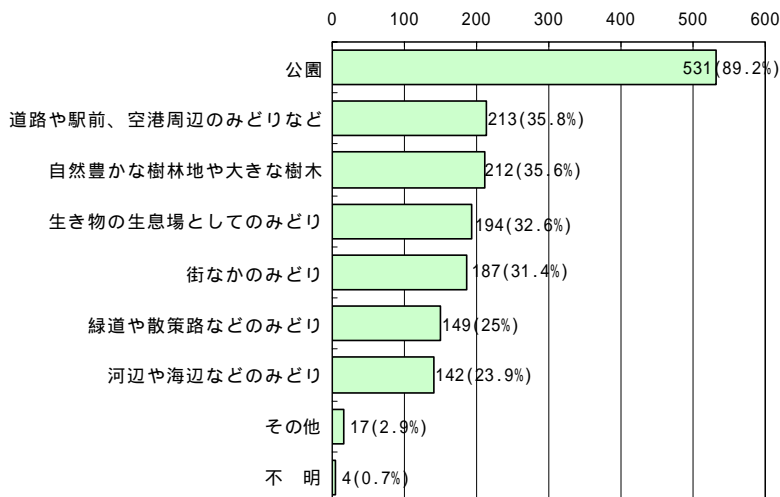


図-21 今後増えて欲しいみどり（複数回答）

< みどりに関わる活動への参加状況 >

活動に参加したことがある人は1割にも満たない状況です。また、参加したことがない理由は、「きっかけがなかった」という人が半数以上を占めており、区民がみどりのまちづくりの活動に参加しやすい仕組みづくりが求められます。

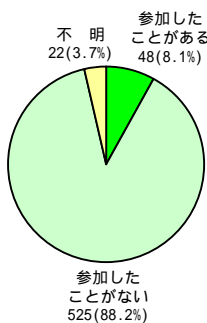


図-22 みどりに関わる活動への参加状況

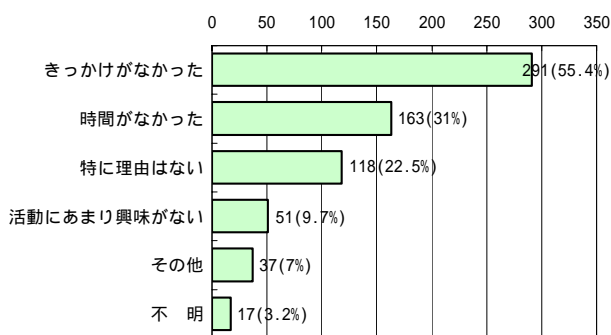


図-23 活動に参加したことがない理由（複数回答）

参加したいと思う活動は、みどりの育成、知識や教養を深める活動が上位となっており、みどりを学び、楽しむ機会づくりが求められます。

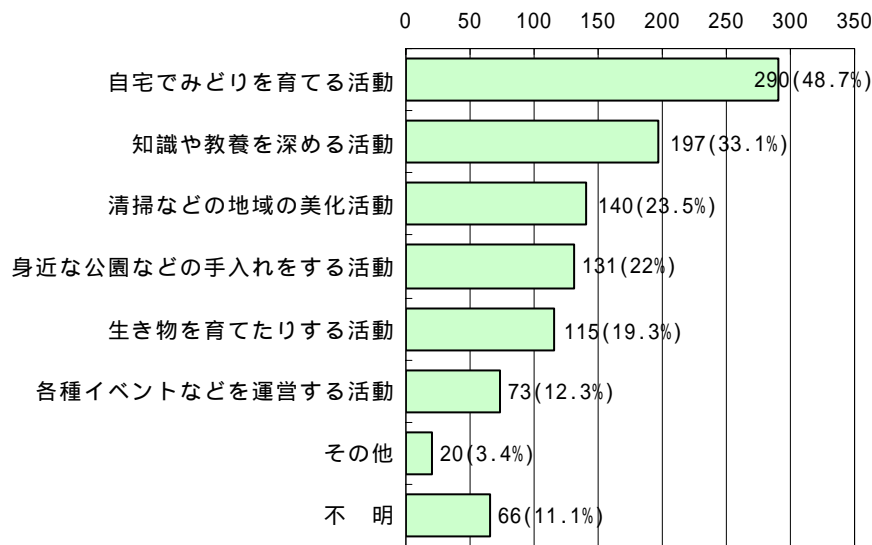


図-24 参加したいと思う活動（複数回答）

< 区民参加促進のために、区が取り組むべきこと >

情報提供や人材育成、ネットワーク・体制づくりなど、さまざまな取り組みが望まれており、区民が参加するきっかけとなる基礎的な仕組みづくりが求められます。

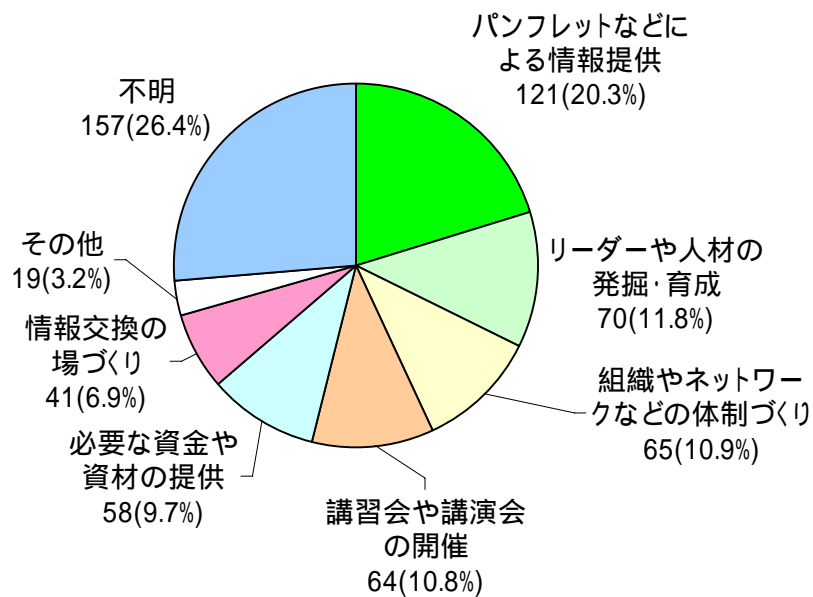


図-25 区民参加促進のために、区が取り組むべきこと

< 将来(10年以上先を想定)望ましいと思うみどりの姿 >

みどり豊かな散策路や豊かな自然や樹林が残されていることが上位となっており、豊かなみどり環境の保全や散策路整備などの推進が求められます。

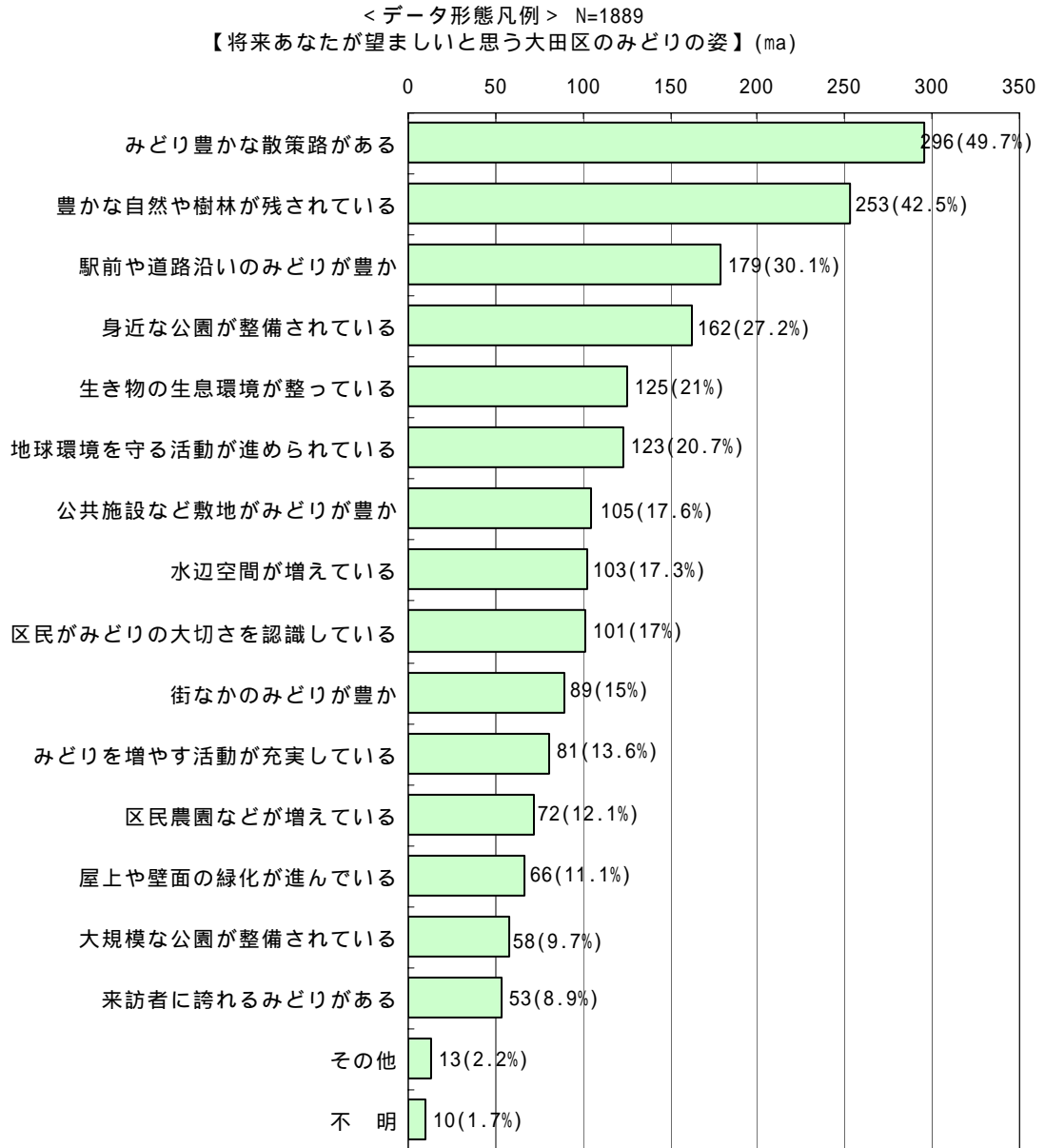


図-26 将来(10年以上先を想定)望ましいと思うみどりの姿(複数回答)

9 改定の視点

改定にあたっては、みどりの現状が抱えるさまざまな課題を踏まえるとともに、「おおた未来プラン10年」に定められたまちづくりの方向性や社会状況、区民意識の変化、さらにこれまでのみどりのまちづくりの取組み実績評価など、新たな視点を踏まえます。

【改定の主な視点】

- (1) まちづくりの方向性からの視点
 - 1) 地域力の発揮
 - 2) 国際都市の実現
- (2) 社会状況や区民意識の変化からの視点
 - 1) 持続可能な環境都市づくり
 - 2) 量から質への展開と多様なニーズへの対応
 - 3) まちの個性演出や魅力アップ
- (3) 実績評価からの視点
 - 1) つくるみどりから守り育てつなげるみどりへ
 - 2) 実効性のある分かりやすい計画へ

(1) まちづくりの方向性からの視点

1) 地域力の発揮

大田区は、「地域力が 区民の暮らしを支える おおた」を目指して、18 特別出張所ごとの地域の特色を活かしながらまちづくりを進めています。

みどりのまちづくりにおいても地域力を活かしながら、安らぎと潤いにあふれた環境に優しいみどりのまちづくりを進めます。

2) 国際都市の実現

大田区は、羽田空港の再国際化を受けて、人、もの、技術を世界に送り出している国際都市として、都市と人々をつなぐ役割を積極的に担いながらまちづくりを進めています。

区民の日常生活の中のみどりである自然環境や文化、歴史など、区内に数多く存在する地域資源を活用し、世界に向けたおもてなしのみどりのまちづくりを進めます。

(2) 社会状況や区民意識の変化からの視点

1) 持続可能な環境都市づくり

今、都市部では、さまざまな環境問題を背景に未来に持続する地球に優しいまちづくりが求められています。

みどりは、人々に潤いや安らぎを与えるとともに、多くの生命を育み、都市気候を緩和し、都市環境を改善するはたらきがあります。さらには地球温暖化の原因となる二酸化炭素(CO₂)の吸収源ともなります。

これからのまちづくりにおいては、みどりの効用を最大限に発揮し、利用し、未来につながる持続可能な環境都市づくりを目指します。

2) 量から質への展開と多様なニーズへの対応

これまで、みどりのまちづくりにおいては公園・緑地の整備や緑化推進など、みどりの量の確保に重点をおいてきました。

近年、区のまちづくりでは少子高齢化や、ライフスタイル、住民意識の変化などにより、まちの質の向上や多様なニーズへの対応を重視する声が高まっています。

みどりのまちづくりにおいても誰もが楽しめ、親しめる、良質なみどりをつくるとともに、これを育て、未来に引き継いでいきます。

3) まちの個性演出や魅力アップ

大田区のまちは、変化のある地形がおりなす環境と、多様な土地利用や暮らしが展開するまちの構造が特色です。

みどりについても河川や海辺、崖線などの自然地から、住宅街や工場群、埋立地のみどりまで、多種多様なみどりがあることが特色です。

これらを地域の個性や魅力として捉え、地域力により演出し、魅力アップを図り、まちを訪れる人々に誇れるようなみどりのまちづくりを進めます。

(3) 実績評価からの視点

1) つくるみどりから守り育て広がりつつながりのあるみどりへ

これまで進めてきたみどりのまちづくりでは、みどりが不足している地域の公園・緑地の整備や緑化推進などに重点的に取り組んできました。

引き続きみどりをつくり、増やしていくことも大切ですが、未来に引き継いでいくみどりとして、これからは維持管理やみどりに親しむことにも重点をおき、地域力を活かしながら守り、育て、広がりつつながりのあるみどりのまちづくりを進めます。

2) 実効性のある分かりやすい計画へ

これまでのみどりのまちづくり施策の取組みの中には、目標の達成状況が十分でなかったものがあります。これまでの施策の取組み実績を踏まえながら、より実効性のある、誰にでも分かりやすい計画づくりを進めます。

10 みどりのまちづくりの課題

みどりの現況と課題や改定の視点などを把握し、総合的に以下の課題を整理しました。

(1) 新たな視点によるみどりのまちづくり

今、大田区のみどりには従来の概念を越え、新たな視点からまちづくりに寄与することが期待されています。羽田空港の国際化に伴う来訪者へのおもてなしや、地域力の向上、多文化共生*などの、新たな視点によるみどりのまちづくりが求められています。

(2) みどりのパートナーシップの強化

みどりのまちづくりの担い手を強化する必要があります。余暇、社会教育、環境教育、高齢者や障がい者の活動などの区民主体のみどりのまちづくりへの支援や、NPOなどの団体や企業との連携をさらに図るなど、今後より一層、みどりのパートナーシップを育て、強化していくことが求められています。

(3) 緑の減少への対応

これまで比較的緑が豊かだった台地部の住宅地で減少が顕著になっており、区全域で緑の減少を食い止めることが重要です。緑の減少を抑え、また新たな緑を増やすことにより、緑の量を増やしていく取組みが必要です。

(4) 自然環境の保全

生物多様性の確保は地球的な課題になっています。また、生き物とふれあえる身近な自然が少なくなっています。自然と命のみなもとであるみどりを、区民と共に守り、育て、未来に引き継いでいくため、自然環境の保全に取り組む必要があります。

(5) さらなる水と緑のネットワークづくり

水と緑のネットワークの形成は、区民の生活環境や都市の魅力の向上だけでなく、都市内の生物生息環境の向上に大きく寄与します。区民の日常生活での移動やレクリエーション、健康増進などを支えるとともに、緊急時の避難場所への避難経路としても活用できる水と緑のネットワークづくりがさらに必要です。

(6) みどりの地域ブランドと生活環境の整備

公園・緑地の整備や緑化の推進などに対する区民の期待は大きく、区民のみどりの満足度を高めていくことや、多様なニーズに対応したみどり豊かな生活環境の整備が求められています。また、みどりを活かしてまちの個性を演出し、まちの魅力アップや質の向上を図ることで、まちへの愛着を高める必要があります。

(7) 持続可能なみどりのまちづくり

社会的な課題である地球環境問題や都市気候問題に配慮した、未来に持続する地球に優しいみどりのまちづくりが求められています。貴重なみどりを未来に贈るために、区民のみどりへの意識を高めることや、個人でもみどりを存続できるような仕組みづくりが必要です。

 生物多様性ってなに？

最近よく耳にするようになった言葉として、「生物多様性」があります。ごく簡単にいうと、「生態系・生物群系または地球全体に、多様な生物が存在していること」です。それらは、ばらばらに存在しているのではなく、依存しあったり、食物連鎖のなかで食べたり食べられたりするなどつながりをもっています。「みどり」はさまざまな生物のすみかになっているので、「生物多様性」に富んだ環境にするためには「みどり」が必要です。

本計画を策定した2010年は、国連が定めた「国際生物多様性年」で、また、名古屋で「COP10（生物の多様性に関する条約を結んだ約190カ国が集まる会議の第10回目）」が開催されました。



キツネノカミソリ
(田園調布せせらぎ公園)



トビハゼ
(多摩川河口)